

# 被害者への対応策(つらい気持ちを理解し、心のケアを)

## 教師の対応(スクールカウンセラーとの連携)

- 話をうなずきながら聴く。**  
顔を見ながら子どもの訴えを、一言ひとことにうなずきながら聴くことは、「きみの言うことをしっかり聴いているよ」というメッセージとなる。余計な言葉をはさまずにしっかりと気持ちまで聴き取るつもりで応ずること。
- 本人の訴えた言葉を繰り返してあげる。**
  - ・あなたの話をこのようにきちんと聴いているよということを子どもに伝える。それが「先生は聴いてくれているんだ」という子どもの安心感を生む。
  - ・自分の身に起きていることを客観的に考えてみるきっかけをつくることができる。
- 話が混乱しているときには、その内容を整理して伝える。**
  - ・教師が事実関係の把握に誤りがないかどうか確かめる。
  - ・被害者が自分の感情を整理して具体的に考えられるようにする。
- 分からないことを質問する。**
  - ・話していることがよく分からないからといって、子どもの話を遮ってまで聴かない。
  - ・「分からないところがあるから質問してもいいですか」とたずねてから聴く。
  - ・不明確なところを簡潔に質問し、整理して伝える。
- 本人が努力していることを支持する。**
  - ・「一生懸命がまんしていたんだね」「いろいろ工夫したんだね」と、努力を認める言葉をかける。
  - ・本人の努力した方向が違っていると思えても、否定の言葉を言うてはならない。
  - ・「そんなことしちゃだめ」「なんでそんなことするんだ」と努力を否定されると、次への努力のエネルギーを失ってしまう。
  - ・否定の言葉よりも「どうしてそうしたの」とか「どんな気持ちだったの」とその気持ちを聴いてみるのが大事である。

### <確認すること>

いつ頃からそんなことが?(最近?長期?)     どんな時に?  
どんなことから?     何かのきっかけで?  
どこで?(教室内、トイレ、学校の帰り道など)  
どんな方法で?(暴力?無視?など)  
1対1? 複数?    グループ?    だれが?(命令する人は?)

## 秘密を守ることを保障

## 家庭での対応

- いじめられている事実が分かった時**
  - ・「お父さんとお母さんは最後まであなたを守ってあげる」
  - ・「これは解決しないといつまでも続く、一緒に乗り越えよう」
  - ・いじめのひどい時は学校を休ませることが必要な場合もある。  
(学校との連絡を密にする。)
- 子どもに送るメッセージ**
  - ・「あなたは大事な子なのです」
  - ・「生きる価値がある人間なんだよ」
  - ・抱きしめたり、手を握りしめたりスキンシップを図るなどして親の愛情を伝える。
- 危険信号に気づく(特に自殺のサイン)**
  - ・死についての発言はないか?
  - ・他の子の自殺に同情する発言はないか?
  - ・眠れない様子はないか?
  - ・死を賛美する言動はないか?

## 好ましくない対応

- いじめの存在に気づかない**
  - ・「本人がいじめを告白しないと、いじめは分からない」
  - ・「いじめられているように見えなかった…楽しそうにしていた」
  - ・「いじめと直接結びつけることができなかった」
- いじめの深刻さに気づかない**
  - ・「いじめられる方にも問題がある」
  - ・「私たちの子ども時代にもいじめはあった」(大人の考えである)
- 徹底した否定認識**
  - ・「やられたらやり返してこい」
  - ・「反抗できない方が悪い」
  - ・「負けるな、がんばれ、いい試練だ」
  - ・「はっきり言って迷惑だ」  
(真相を究明しようとする被害者の家族の訴えに)
- 早急な直接対決**
  - ・本人(相手)の合意を得ない対決(強制)をさせる。
  - ・日時、話し合いのルールを定めない。
  - ・どちらの言い分が正しいか決めつける。
  - ・教師が裁判官になる。
- 外部の情報を活用しない**
  - ・「密室」の対策。
  - ・いじめ防止に役立つ記録を公開しない。